

大久保利助君

安政五年十月生産新治郡石岡町の人なり。先考皆商賈を以て家を爲し夙に郷曲の名族たり。君少弱より家事に従ひて施設する所あり、明治維新の際大に時勢の推移に心を注ぎしが、兵革鎮まりて一旦北方蝦夷地の開拓を視察せむと欲し乃ち明治十二年一小汽船に便乗して渡航し、江差松前函館各地を巡歴して還れり。此時本道は函館縣最も民業進歩せしかと、居人多く漁業を以て産を爲し農工の如き未だ全く發達せず製造加工の業觀るべきなく、而も人情豪放常に酒色を嗜んで恒志なきを看、君乃ち釀酒業を起さむと企て、十四年夏之が準備を整へて龜田村の地を卜し一大釀造場を設けたり。爾來三十年函館港の發展に連れ清酒の需要額頓に増大し、又全道所在に勃興する農邑漁港に供給する額萬石に上り、已に全道屈指の富豪と爲れり。君賦質敦篤誠盡推されて區會議員となり又數多の公職を兼ねぬ。



北海道上川町大字入舟町
飯塚城之助 業漁



北海道上川町警察署在勤
大關仙吉 吏官



北海道上勝浦國崎街地
阿津貞次 業商



北海道上勝浦國崎町四二條通
黒澤賢造 業商

飯塚城之助君

慶應三年十一月三日恰も先帝天長之佳節と日を同うして新宮村大竹に生れき。郷曲鹿島灘の風光は君を驅て扁舟を操らしめ夙に漁獵に長せしが、明治二十七年渡道して厚岸に來れり。

厚岸は本道海岸第一の漁港にして深海の遺利量る可からず鹿島灣頭君が修練の技能は克く地人の未だ及ばざる所に及び、海中の鉅利を網し得て忽ち産を爲し、同港入舟町に廣大の漁區を有せり。

大關 仙吉君

樺穂村下小幡の人にして、嚴君農圃に親み亦弱冠より犁鋤を乗りて躬耕具さに艱勞を致せり。而も窮匱の間に勤學怠らず、三餘必ず手に卷を棄てざりき。

明治二十九年茨城縣巡查に就職し、後ち辭して東京に出で稅務署印刷局等に職を奉じ、三十四年北海道巡查の召募に應じて渡道し數年にして部長に進み職を辭して後再び釧路署に就職し爾來勤續十餘年、現に同署に内勤たり。

阿久津貞次君

百六十四

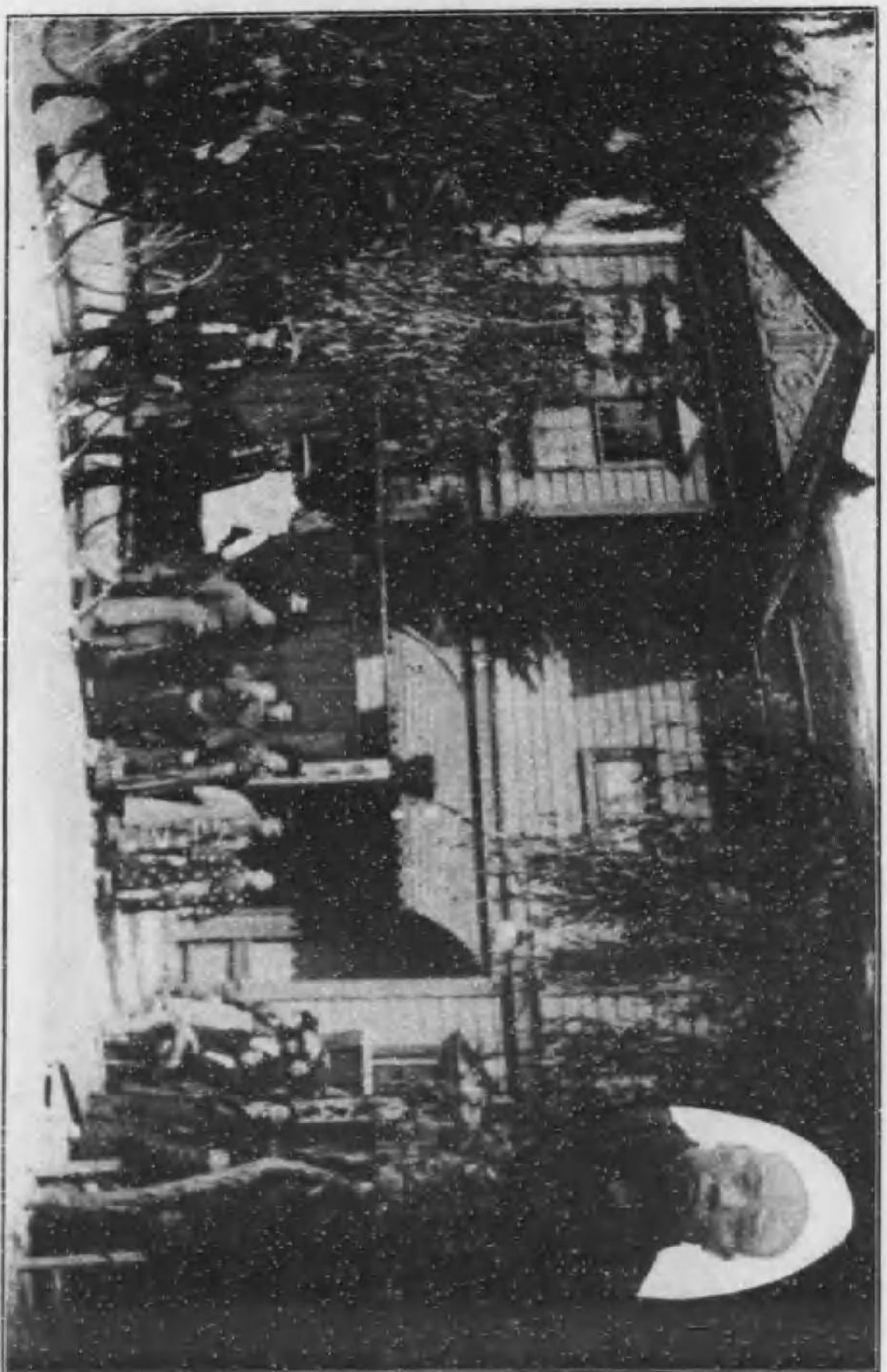
浦幌村は十勝の南境に近き一大部落にして市街地は大津川の支流に沿ひ鐵路其南を走り街衢井然凡百の物貨備はらざるなし。此間に阿久津商店吳服太物を專業とし市内第一の豪賈たり。

白糠村は釧路町に亞ぐ大邑にして殷盛將に浦幌を凌げり、市内最も宏壯の商舖を吳服商阿久津支店なりとす。主人阿久貞次君は名崎村の産にして年齒而立に満たざる三歳、精力奕々前途更に大に期待せらる。

黒澤 賢造君

十勝帶廣町に騎人黒澤賢造君あり、干霜、星鑽、藏する所數百振、堅利侯あり蛟龍子あり莫耶あり郷人傳へて古刀界の偉觀となし來り觀る者門前市を爲せり。君別に常業あり賦力職を營みしが、而も古劍鑑定の眼識却て餘業を以て本業となさしめたり。

君元と鮎川村成澤の人、代々酒造家たりしが明治二十一年北海道有珠紋監に來り後ち全道を巡遊して三十六年今の所に市舎を結べり。年齒知命を過ぐる六歳。



屋陸帯店理料目丁七通條四町川旭郡川上道海北
氏郎次榮田吉主店

吉田榮一郎君

常陸の國名を冒すもの穀抵の士常陸山を外にして本道運送業に常陸組あり、青樓に常陸屋あり、皆斯業の随一者たり。常陸屋は旭川町四條通り繁華の巷に在り。朱屋宏壯累榭人目を惹き、後房常に數十の阿嬌あり、遊遊の公子踵を斷たず。主人吉田榮一郎君は下館町の人にして慶應元年町の商戸に生れ、弱冠より羅縷を業とせしが一歳産を破りて北海道に來り、明治二十五年先づ函館に停まり、轉じて小樽に至り再轉して旭川に入り初めて商機を捉へ、三十年六月一酒樓を開きて客を呼びしに大に地人の聘嗜に投じて忽ち贏盛を極めたり。四十三年一旦包祿の災する所となりしが再び工を起して一大亭榭を築き乃ち今日の殷富を致せり。

札幌區役所勤務

公 吏 竹江 重誠氏

北海道札幌區北十一條西二丁目

北海道鐵道管理局在勤

官 吏 助川佐之介氏

北海道札幌區北十四條西四丁目

札幌警察署在勤

官 吏 飯村愛次郎氏

原籍茨城縣西茨城郡笠間町

農 業 小管定一郎氏

北海道札幌區字山鼻村

代書業 小橋竹次郎氏

北海道函館區汐留町三十一番地

小橋竹次郎君

百六十八

明治元年靜村の石澤の農家に呱呱の聲を揚げ長じて銚鋤を
 乗り墾圃に耕せり。年紀有室を過ぎて挺身本道に來り大に
 爲すあらむとす。初め北海道廳巡查を志願し七飯村に在勤
 せしが、三十九年退きて身を實業界に投せむとし、根室の
 金戸柳田藤吉に知られ函館辨天町の倉庫事務員となれり。
 精勵四年大に得る所あり。乃ち自立して汐留町に代書業を
 開きしに、匆忙日夜相繼ぎ落得己に産をなすといふ。

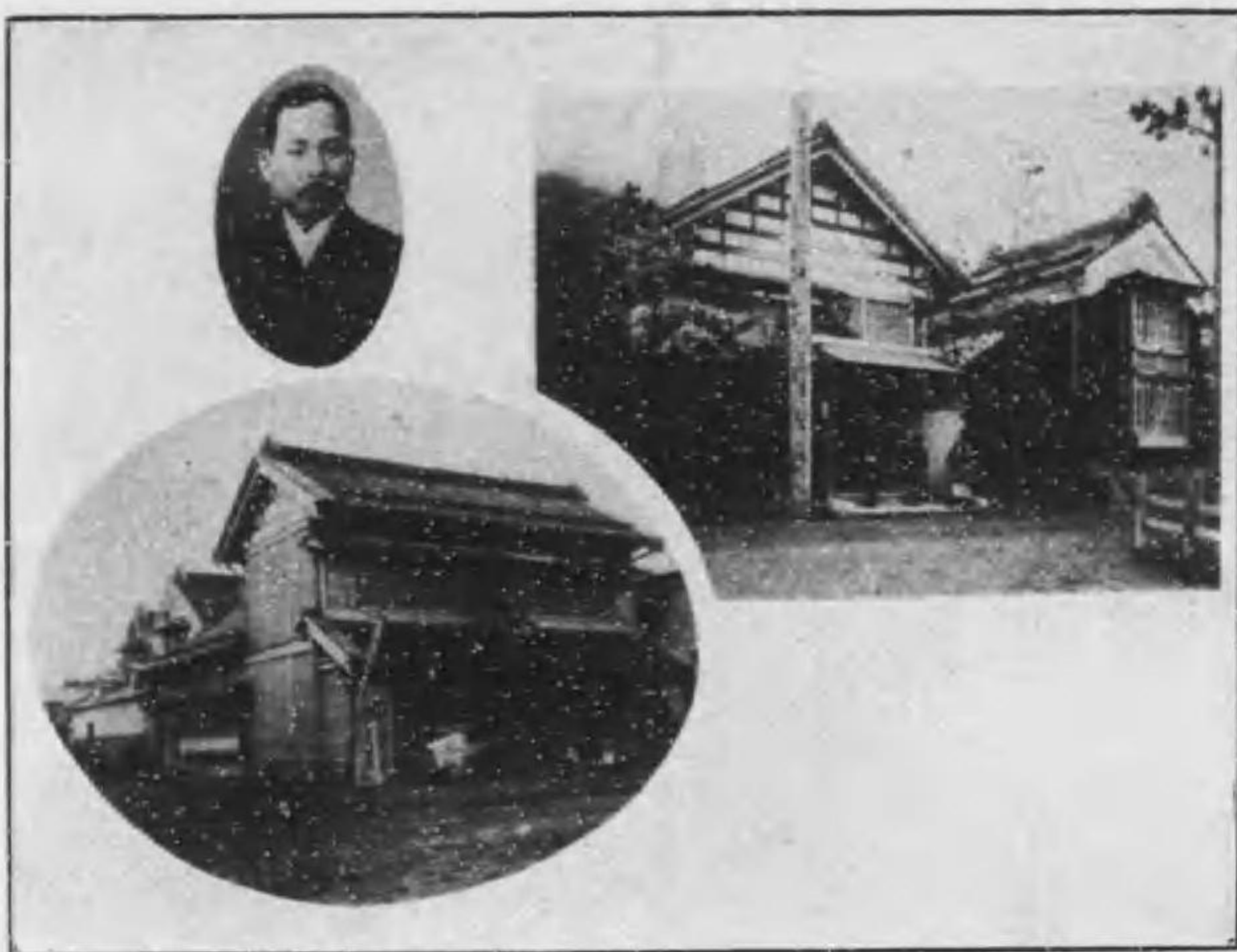
江戸仙一郎君

明治十二年作岡村作谷の家に生れ、舞勺のころより家の業
 を助けしが、壯年に及んで偶々感ずる所あり、朝鮮半島の
 風雲を望み蹶起して對洲水道を渡りき。惜いかな天此人に
 嘉祐を與へず、忽ち二豎に犯され恨を懷いて郷に歸りぬ。
 後病癒えきと雖も坎凜不遇、北海道廳巡查となりて札幌警
 察署に在勤し、後江別に轉じ、再轉して現に茅部郡森分署
 にあり。

森警察分署在勤

官吏 江戸仙一郎氏

北海道茅部郡森村



莊別=并店商郎次福津梅町廣末區館函道海北

氏郎次福津梅 員議會區



テ於=場動運頭地谷區館函口四十二月五年五十四治明
 ルタ得ヲ賞等優節ノ會動運合聯合組屋間酒區館函

同一員々店商津梅

梅津福次郎君

函館區末廣町の最も般賑なる巷を十字街といひ、十字街頭華舗揃比するところに梅津商店あり。洋酒罐詰食料品を繋ぎて町内第一の蕃昌を極む。

店主福次郎君は太田町の人にして安政五年二月町の商家に生れぬ。當時舊里の市況到底挽回すべからざるを見明治十三年九月北海道に來り函館末廣町に一肆宅を開きたり。爾來順境にありて家聲大に揚りしが四十年秋全市大火に逢ひて君亦同祿の災を免るゝ能はず損害實に二十萬圓に上りき。然れども銳意屈せず之が再興を計るや四方の同情靡然として集まり未だ期年ならざるに能く大商舗の舊態を回復するに至り現今貨産五十萬を超ゆと云ふ。君亦擧げられて區會議員となり、函館商業會議所議員其他公職を帯びたり。

實業

吉原太一郎氏

北海道十勝國帶廣町

商業

市川源三郎氏

北海道根室國根室港梅枝町

實業

本多清之助氏

北海道釧路國釧路港字浦見町

事務員

池田竹松氏

小樽區奥澤中山組出張事務所

官吏 岡野 菊氏

北海道札幌稅務監督局

助役 加納健次郎氏

北海道釧路國釧路驛

官吏 神長 德三氏

北海道釧路國釧路警察署

實業 川津榮一郎氏

北海道釧路國釧路港字浦見町



北海道川上郡旭川町字曙通
商人 中山 順一郎 氏

山中順一郎君

朝日村福田の産にして、嘉永五年八月誕生、家は耕農を業としけれと、君家積を以て
 僮夫の事となし、小少にして四方に出遊せり。
 年三十二偶々覺醒し來れば身而立を過ぎて、而も家に恒産をなく、郷黨皆名を目す
 なる倫薄の子を以てせり。君乃ち蹶然として立ち明治十六年北海道に入り札幌
 に来り郷人飯田格之介の客となりき。偶々電信技術員の募集に應じて業を習ひ、
 出で、苦小牧岩見澤等の郵電局に勤務し、後ち北海道炭礦鐵道會社に入りて驛内
 電信技手となり、勤儉身を持し、漸く産を蓄へて貨殖を計り、以て他日の機を待てり。
 年耳順に及んで、廻ち技術員を辭し、旭川町に移りて曙通りに遊廓を開き名づけて
 大黒樓といふ。朝夕豪遊の客を送り迎へて爾來町内に全盛を極めたり。



勤在署察警川旭國特石道海北
 氏内平井藤 部警



勤在署察警川旭國特石道海北
 氏次國越水 吏官



勤在署察警川旭國特石道海北
 氏介之留關 吏官



勤在署察警川旭國特石道海北
 氏介之己澤 吏官

藤井平内君

北中郷村木皿の人、村田平十氏の四男なり。舞勺のころより出藍の譽あり縣立中學を卒へ笈を負うて帝京に遊ぶことあり、明治三十八年本道巡査の召募に應じて渡道し、十四年警部補に任じ、小樽水上署小樽警察署等に歴任し、旭川に轉動して現に職に在り。君尙年壯にして眉目秀麗、頭腦亦明晰なり。事に處して果決其機を過らず、機警俊穎、儕輩の間に鳴れり。偶々月下翁ありて同所藤井姓を襲ぐといふ。

關留之介君

明治二十一年澤山村上阿野澤に生れき。村の小學校を出でて茨城縣師範學校に於ける常役講習會を修業し、四十二年二月水戸上市煙草專賣局雇となりしが、客の北海道より來りて天賦の大富源を説く者あり。君心動きて遊志禁ずる能はず乃ち職を辭して本道巡査の召募に應じ四十三年春渡道して旭川警察署勤務と成り今日に至れり。君少時より武を愛し現に署内武術六段に進めり。

水越國次君

慶應二年初蠶村蔵に生れ、啓蒙學校を卒業して、小學教員となり、次で神奈川縣巡査を志願し壽町伊勢原伊勢佐木各署に在勤せしが、四十年病を以て職を辭せり。四十二年更に北海道廳巡査に採用せられて渡道し爾來旭川置に勤務せり。公有地神樂村等に駐在し又獸疫檢疫委員を命せられ、昨年更に轉動して上川郡和寒駐在所に在り。

澤己之介君

明治十七年常磐村の農家に生れ、弱冠より書讀を好み郷里に庠校を卒ふるや、單身苦學を志して東都に出でぬ。三十六年巡査講習會に入りて法學を修め、三十九年普通文官試驗講習會を修了し、翌年春埼玉縣巡査を志願し飯能署に在勤しき。四十二年北海道巡査に採用せられ羽幌鬼鹿等に勤務し其間鑽磨怠らず早稻田大學校外法科を修了せり。四十五年旭川署に内勤となり、武術稽古獎學論文等に賞狀を受けし事一再ならず。



本帖發行兼編纂者

小澤久太郎

大正貳年六月一日印刷
大正貳年六月五日發行



禾稜製許

編輯者 北海道札幌區南七條西一丁目十一番地 小澤久太郎

發行者 北海道札幌區南七條西一丁目十一番地 小澤久太郎

印刷者 東京市京橋區宗十郎町十五番地 永田德之助

印刷所 東京市京橋區宗十郎町十五番地 合資 東京國文社

發行所

北海道札幌區南七條西一丁目拾壹番地

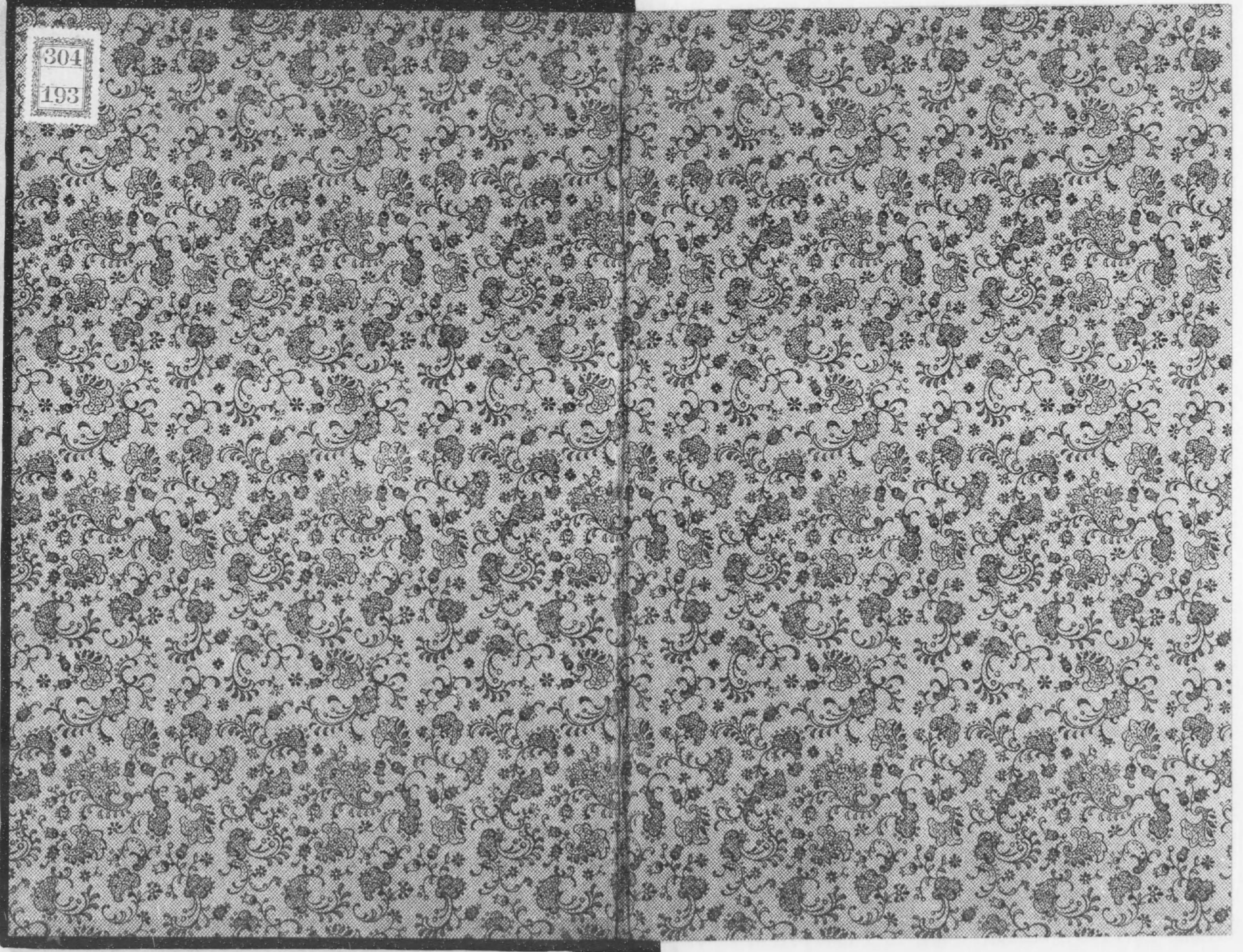
茨城縣人共和會事務所

在北海
道茨城縣人寫真帖奧附

定價金四圓八拾錢

304

193



終